

ひょうご

# 県知協

## NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人  
兵庫県知的障害者施設協会  
〒651-0062  
神戸市中央区坂口通2丁目1-1  
兵庫県福祉センター5階502号室  
TEL (078) 862-6026  
FAX (078) 862-6082  
E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp  
発行責任者 松端 信茂  
印刷所 交友印刷株式会社

## 会長挨拶

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会  
会長 松端 信茂

昨年の年末頃までは、第5波のデルタ株が落ち着いてきたかに思いましたが、年明け早々には感染力の強いオミクロン株への置き換わりにより、兵庫県では1週間の平均が5千人を超える急速な感染拡大が続き、1月27日に指定された「まん延防止等重点措置」の実施期間は繰り返し延長されることとなりました。

この間、協会会員法人でもたくさんの施設、事業所でクラスターが発生している状況です。第5波までにはなかった支援施設を中心に大規模クラスターが多数発生しており、自法人内の緊急支援体制の編成と職員の献身的な頑張りによりぎりぎりの状況で持ちこたえられていることと存じます。

『兵庫県協力学スキーム、緊急時の応援体制づくりコーディネート事業』において、兵庫県障害福祉局と連携して、「基本的、具体的な感染防止策、感染拡大阻止の徹底等の周知、要請文書の発信、関連情報の発信」、「市町、地区会からの連絡による施設、事業所の感染状況の取り纏めと共有」、「対策、対応の相談」、「衛生資材の供給」等々、神戸地区では「ワクチン接種専用会場への支援職員派遣」、「濃厚接触者の宿泊施設への応援職員派遣」、「委託事業としての相談窓口の設置」等々、バックヤードでの支援活動は行っていますが、通常業務でも人手不足の中、ウイルス感染症の性質上の問題、「PCR検査」、「感染症状」、「濃厚接触、潜伏期間、隔離期間、待機期間」、「他エリアへのウイルスの拡散」等々により、支援として最も必要な現地（感染エリア）への他法人から応援職員の派遣は現実的には不可能に近いと、コロナウイルス禍の前での無力さを痛感しています。

昨年度から2年間コロナ禍に翻弄され、対策に明け暮れた2年となりましたが、新たな時代に対応する「協会機能の構築と運営」を目的に、90号～93号の誌面上でも掲載のとおり、役員はじめ関係皆様のご尽力により、「地区会の事業活動」、「強度行動障害スーパーバイザー養成講座を基軸にした強度行動障害支援事業の県事業化に向けた取り組み」、「農福連携推進会議の開催」、「権利擁護、虐待防止研修の地区訪問研修、講義内容動画(2h)のYouTube配信（講師：谷口泰司教授 関西福祉大学）」、「ホームページのリニューアル」、「WEBシステムの導入」等々を実施しました。

また、厚生労働科学研究「高齢知的、発達障害者の変化と気づきのためのライフマップ作成のための研究」、「障害福祉の現場におけるハラスメントに関する調査研究」の2事業に県知協会長職として委員参加しました。両調査研究事業ともに新年度に向けてマニュアルが完成しますのでご活用いただければと思います。たくさんの皆様に実態調査アンケートにご協力をいただきありがとうございました。

未だ終わりの見えない状況が続いていますが、この苦境を皆様と一緒に力を合わせて乗り越え新年度を迎えたいと思います。今年度も施設協会の事業にご支援、ご協力をいただきましたことに改めて感謝を申し上げ、一年の締めくくりのご挨拶とさせていただきます。

## 神戸地区の報告



神戸地区代表代理 丸山 博徳

兵庫県知的障害者施設協会の神戸地区は、神戸市知的障害者施設連盟として事業活動を行っています。

神戸地区において新型コロナウイルスの感染が昨年11月には一旦、落ち着いたかと思われましたが1月には一転して一層感染力が強いとされるオミクロン株の驚異的な感染により、障害福祉サービス事業者でも多くの感染がみられています。

市知連としての活動ですが昨年の11月26日に楠公会館にて令和3年度第一回の役員会と施設長会を行い、神戸市からは介護保険課からKOBESINIA元気ポイントについて、障害者支援課から障害者施設職員スキルアップ研修について其々に担当課長からの行政説明がありました。施設長会では新型コロナウイルス感染についての報告と情報交換を行っています。

1月から3回目ワクチンの優先接種の申請が開始

され、2回目接種から7か月経過した施設、事業者からワクチンの集団接種が行われています。

また2月からは神戸市役所の集団接種会場にて在宅障害者の3回目のワクチン接種が行われ接種補助の応援職員の派遣を行っています。強度行動障害のある人達の特性の理解と適切な支援とその専門性が問われているところですが県知協の強度行動障害スーパーバイザー養成事業にも神戸地区より3施設(5人)が公募により決定され基礎講座を開始しています。

今後、一向に収束が見えない新型コロナウイルス感染の影響を受け、事業活動や行事も一定の制限が掛かると思われませんが、市知連としても加盟施設相互の情報交換や連携を深め、長期化するコロナ禍を乗り越えて行かなければなりません。

## 阪丹但地区の報告



阪丹但地区副会長 西條 篤人

会員施設・事業所の皆さまにおかれましては、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいることと思います。阪丹但地区においては研修をオンラインで行い、会員施設や事業所に少しでも役立つ情報発信を行なっております。

今年1月には新型コロナウイルス対策研修と題して、杭瀬福成園とドリーム甲子園にて発生したクラスターの体験談と看護師による感染対策の構成で研修を行ないました。いつ終息して、いつから事業を再開できるのか、実施している感染対策が正しいのか、個人情報など様々な不安がある中で、現場の最前線に対応にあたられた職員の方々の苦悩が伝わってくる内容でした。職員の立場からすると感染拡大の防止が最優先になるだけでなく利用者さまにとっても日常とは異なる流れになるため、感染拡大防止と利用者さまの安定・生活の質とのバランスを

どのように取っていくのか、施設・事業所に求められているものは多岐に渡ると感じました。また感染症認定看護師による講演では感染対策の基本からインフルエンザとの違い、重症化のリスク因子などの話を中心となりました。またコロナ禍における職員のメンタルケアも重要であり、この点については3月にオンラインにて研修を実施致しました。その他、2月には阪神福祉事業団さまとの共催にて公開事例発表会～重度の知的障がいを抱える自閉症の評価と実践～もオンラインにて実施致しました。

オンライン中心での情報共有、連携が始まって2年が経過しようとしています。対面の良さを感じることもあります。制限がある日常がもう少し続きそうです。どのような形であれ、今後も皆さまのお力になれるよう努めてまいりますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

## 播淡地区の報告



播淡地区会長 天野 一雄

新型コロナの感染が再び急拡大するなか、学校・保育園の休校、休園が相次ぎ、その影響が家庭にまで広がり、利用者家族や職員が感染者又は濃厚接触者として自宅待機になり、各事業所は感染対策とは別に運営にも苦慮されていると思われ。これ以上感染を拡大させないためにも、3回目のワクチン接種が急務だと考えています。

このような中、播淡地区では2月に、施設長向けの研修会とキャラバン事業をハイブリッド研修で進めていたのですが、蔓延防止の観点からリモート研修に切り替えて進めています。当初は久しぶりに顔を合わせての研修に期待もしていたのですが、来年度への持ち越しとなりました。

その来年度についてですが、コロナ前まで行われていた「ばんたん・親善運動会」、「ばんたん・ゆう

あい文化祭」については、仮にコロナが落ちついたところで、従来通りの大集団での活動は難しいと考えています。そこでそれに代わるものとして、利用者にスポットを当て、そこに地域を巻き込んでのイベントが出来ないのか、職員代表者会を中心に考えているところです。個人的には、一事業所では出来ないけれど、播淡地区の施設が集まれば何か出来るようなものにしてもらいたい、と考えています。難しいお題だと思いますが、発想の転換と奇抜なアイデアを期待しているところであります。

今後も新型コロナウイルス感染症と向き合いながら、事業を進めていきたいと考えています。このような時だからこそ、播淡地区会員施設が結束を図り、この難局を乗り越えていきたいと思っております。

# 活 / 動 / 報 / 告

## 令和3年度生産活動・就労支援部会を振り返る

生産活動・就労支援部会 部会長 齋藤 克己

新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染が福祉事業所においても急拡大しています。この原稿を書いている今も福祉関係事業所の利用者さんが感染したとの情報が入ってきました。この一年は、デルタ株とオミクロン株に翻弄され、部会活動もその時々で判断を迫られる大変難しい運営だったと感じています。

そうした中で私たちの部会は、可能な限り事業を中止せずに、その時々で行える方法を模索しながら二本の柱で事業を進めてきました。一つは農福連携の推進事業、もう一つは加盟事業所における生産活動状況の把握と情報発信に関する取り組みでした。

先ず、農福連携事業については、省庁の枠を超えて国が推進する農業分野と福祉分野との連携を兵庫県においても推進したい、とりわけ、施設協会として積極的に関わっていきたいとの趣旨で、「第1回農福連携推進会議・研修会」を開催しました。昨年度に開催した「農福連携関係事業所会議」では、就労継続B型事業所を中心に開催しましたが、今回は生活介護事業所や障害者支援施設にも呼びかけ範囲を広げて開催しました。11月25日、新型コロナウイルス感染が一定落ち着いた時期に兵庫県民会館に約20事業所の職員約40名が集い、「農業」に関係した取り組みの現状を紹介しあうとともに課題などを話し合い、大変充実した会議を持つことができました。オブザーバーとして県庁のユニバーサル推進課や総合農政課、また、兵庫セルプセンターにも出席をお願いして貴

重なご意見をいただき、この会議については、今後も継続していくことを参加者で確認しました。久しぶりに膝を突き合わせての会議で、参加者同士での名刺交換もできました。2回目の会議を年度内に予定していましたが、感染拡大により次年度に延期することになっています。

次に加盟事業所の生産活動を把握・発信する取り組みについてです。これについては加盟事業所の協力を得てアンケートによる生産活動の現状を把握し、施設協会のホームページにデータとして掲載し、加盟事業所間で活用していただけるよう準備を進めています。第1回目の集計は11月に行い、農福連携推進会議の資料として一部活用しました。このアンケート結果をもとに、第2回目のアンケート調査を実施し次年度前半には集計することとしています。新たに作られる協会のホームページからデータを取り出し、興味のある事業所に見学に行くなど、事業所の運営に活用できるデータ整理と更新をめざしたいと思います。

令和4年度の実産活動・就労支援部会の活動は、本年度事業の継続が中心となる予定です。就労継続B型事業所だけでなく、広く生産活動や就労支援に取り組む事業所にも目を向け、事業所間のネットワーク化に取り組みたいと思いますので、今後とも会議や研修会への参加、アンケート調査等へのご協力をよろしくお願いいたします。

## 権利擁護委員会の取り組みについて

権利擁護委員会 委員長 村上 弘晃

令和3年度、権利擁護委員会では「関西福祉大学 谷口泰司教授」にご協力頂き、播淡・神戸・阪丹但それぞれの地区にて訪問研修会を計画させて頂きました。開催にあたり、播淡地区7施設、神戸地区3施設、阪丹但地区1施設のご応募を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。今回はご応募頂いた中から教授との日程が合った施設が複数集まったの合同研修とさせて頂きました。現在はコロナ渦ということもあり、なかなか他施設と情報交換をしたり、横の繋がりを作るといった機会が少なくなってきた

と思います。今回の訪問研修ではそういった点も踏まえながら、座談会のような形式で参加者同士が多くのお話を行えるように内容を考えました。

ただ、とても残念なことに1月中旬に3地区開催をする予定としていましたが、新型コロナウイルス（オミクロン株）が流行し始め、何とかギリギリ開催出来たのが播淡地区のみでした。神戸地区、阪丹但地区におきましては、令和4年度に今回開催を予定しておりました施設で優先的に実施させて頂きます。

そして今回唯一開催出来ました播淡地区では、4

施設20名の方に御参加頂き、色々な質問や多くの会話が飛び交う2時間余りとなりました。

谷口教授への質疑応答の内容につきましては、会員の皆様に送付しておりますQ&Aに詳しく記載されておりますので、ご参考までにご覧頂けたらと思います。

協会加盟の施設・事業所の皆様限定として研修動画のYouTube配信もしております。終了期間は特に設けておりませんので、年間を通して職員研修等にご活用頂けたらと思います。

令和4年4月より障害者虐待防止の更なる推進として「従業者への研修実施」「虐待防止委員会の設置」「虐待防止等の為の責任者の設置」。身体拘束等

の適正化として「従業者への研修実施」「身体拘束適正化委員会の設置」「身体拘束等の適正化のための指針を整備」等が義務化され、運営基準の見直し等が必要となります。委員会での検討結果については、全従業者へ周知徹底が必要となります。このような内容についても動画内にてふれて頂いております。また前述したQ&Aでは3地区合計62の質問に対してひとつひとつご意見を頂いており、動画と合わせてとても学びが深まるものとなっていると思います。

県知協 権利擁護委員会では今後も皆様に情報発信と共有が出来る研修会等を計画していけたらと思います。今後ともご協力の程、宜しくお願い致します。

## 協会HP リニューアル

広報委員会 委員長 福西 堅固

広報委員会では、今年度の事業計画の一つとして「ホームページのリニューアル」を挙げて取り組んできました。元々協会のHPは平成27年頃に開設され、会員相互の情報ツールとして運用されてきました。しかしながら、年を経るごとに情報量は減少し、近年では年に数回しか更新されないものとなってしまい、それに伴ってHPを利用される機会も減少していったと思われまます。せっかくあるHPをもっと会員施設・事業所のために有効に活用したいと考え、令和2年頃より広報委員間で検討を始め、全国各県の施設協会のHPを調べたり、HP作成会社に相談を行ったりした後、「会員施設・事業所が活用したくなるHP」を目標に令和3年度の事業として正式に取り組みを始めました。

基本的な企画書を作成して協会の役員会に諮り、秋にはリニューアル業者の募集・プレゼンテーションを実施し、委託業者を決定していきました。その後は業者との打ち合わせによりリニューアルHPのイメージを決定し、現在作成活動の大詰めを迎えています。リニューアルHPは、一般ページには当協

会の紹介、各部会・委員会の情報、会員事業所情報の他、入会案内や求人案内のページを設け会員事業所の開拓や人材募集に活用していきます。会員ページには、情報ページとして障害に関する福祉情勢や全国の動き、協会の事業内容、総会・役員会等の報告などを掲載し、地区・部会・委員会ページでは、各地区・部会・委員会の活動状況をリアルタイムに掲載していくことを予定しています。その他にも協会内で実施した研修の動画配信や事業所のイベント情報、会員事業所へのアンケート調査等へも活用していこうと考えています。

予定では今年度内の完成・公開としていましたが、この1年何かと悩まされ続けてきました新型コロナウイルス感染症により中々思うように進めてこられず、次年度へずれ込むこととなってしまいました。この件に関しましては申し訳なく思う次第です。

来年度早々にも会員の皆様、一般の皆様にも活用していただけるようリニューアルHPをお届けできるよう頑張ってお参りますので、今しばらくお待ち願いたいと思います。

### 編集 後記

「県知協NEWS 94号」の発行となります。今年度は東京オリンピック・パラリンピックや冬季オリンピック・パラリンピックも開催され、多く

の明るい話題で力をもらった一年であったと思っております。しかし明るい話題ばかりではなく、新型コロナウイルスの話題ももうしばらくは続きそうです。そのような中でも当協会ではそれぞれの部会や委員会が工夫をし、その時々で判断を迫られること

がありながらも、前向きに活動をしています。今回の「県知協NEWS 94号」の内容は、会長挨拶から始まり、地区報告、生産活動・就労支援部会報告、権利擁護委員会報告、広報委員会報告とさせて頂きました。こうして活動報告が出来るのも皆様のご理解とご協力があったこそだと思います。来年度も人々との繋がりを大切に、多くの明るい話題をお伝え出来るように取り組んでまいります。皆様、いつもありがとうございます。今後とも何卒宜しくお願い致します。

広報委員会 村上 弘晃